

快適! 暮らしの
サポーター
 supporter ④

タイムス住宅新聞創刊30周年企画

改装で自立・生きがい

「リフォームで、障がい者や高齢者の自立・生きがいを」。㈲ラムハウジングの川上優代表(59)は語る。自然素材の建材も取り入れ、快適で健やかな住まいの提案に余念がない。

介助者の負担も軽く

— メインの仕事は？

住宅リフォームの設計・施工。

高齢者や障がい者が自分らしく生活するための改装「ケアリフォーム」に、自然素材の建材を組み合わせて、快適で健やかな空間を提案しています。

ケアリフォームの目的は、障がい者の自立を促し、高齢者に

生きがいを感じてもらうこと。

施工が自分でできる動作を把握し、サポートする福祉用具まで含めて、国家資格・福祉住環境コーディネーター2級のスタッフが提案します。施主に自信が生まれ、介助者の負担も軽くなるような住まいづくりを重視しています。

以前は部屋に寝たきりで排せつも介助が必要だった方が、ケアリフォームをしたことで、つかまり立ちして自力で用を出しせるようになり、表情が明るくなった例もあります。

— 仕事で大切にしているのは。

施主はもちろん、工事をしてくれる協力会社とのコミュニケーションを密にすること。打ち合わせには時間を掛け、現場にもこまめに顔を出すことを心掛けています。社名に冠したラム(羊)は、群れで助け合って生きていく動物。同じようにわが社も施主や協力会社がいないと成り立たない。その感謝の気持ち忘れずにいたいですね。

— 今後の抱負は。

高齢者や障がい者向けのリフォーム相談窓口を、住宅設備メーカーとタイアップして設けたと考えています。自然素材を使ったケアリフォームを広く知っていただくため、7月にイベントも予定しています。12月には、これまでの施主への感謝祭も企画中です。

すべての人が、住み慣れたわが家で長く過ごせるようになれば、社会はもっと元気になると思います。その手伝いをしていきたいですね。(我那覇宗貴)

妻と娘は大切なスタッフ

わが社は、妻が経理、娘が営業や現場の管理を受け持ち、大切なスタッフです。二人とも明るく、打ち合わせの場が和みます。主婦目線の会話も、施主の本音をつかみ、使い勝手を高めるプランにつながっていて、大助かり。ミーティングでは、率直に意見を言い合い衝突することもあります。絆で乗り切っています。



川上優さん ㈲ラムハウジング 代表

かわかみ・まさる 1956年、那覇市生まれ。中学卒業後、上京。鉄骨造建築の現場に携わる。帰沖後、生コン会社やツーバイフォー住宅メーカーに勤務。93年、ラムハウジング設立。99年、有限会社化。ケアリフォームシステム研究会理事、北谷町商工会議所理事。最近、中村家住宅や識名園など、沖縄の古い建築を見て回る。「風通しの良さや周辺環境との調和など、学ぶ所が多い」と話す。

自然建材 ショールームで

住まいテーマにセミナーも開催



ケアリフォームの質をさらに高めるのが、自然素材の建材。その良さを体感できるのが、北谷町宮城の同社モデルルームだ。

天井や壁には、光や熱に反応し、においや化学物質を吸着分解、調湿もする「幻の漆喰」が施されている。床には宮崎県産の肥料(おび)スギの無垢材「浮造りの床」。表面の浮きだった年輪が足裏に心地よく、しょうゆなどの汚れも吸収する。和室もあり、消臭や保湿の作用がある墨入りの畳・清活(せいかつ)畳が敷かれている。

毎月第2土曜日には、住まいをテーマにしたセミナーも開き=写真=、好評を得ているそう。

㈲ラムハウジング ☎098・936・8808
<http://www.lamb-h.com>